

第36回 頭頸部・胸部画像研究会 プログラム

- 日時：平成19年5月19日（土）13：25～17：35
- 会場：東京国際フォーラム ホールD5
千代田区丸の内3丁目5番1号 電話 03-5221-9000
※会場整理費として当日1,000円いただきます。
- 当番世話人：尾尻 博也（東京慈恵会医科大学）
岩沢 多恵（神奈川県立循環器・呼吸器病センター）

<頭頸部>

代表世話人：黒崎喜久(順天堂大) 辰野 聡(東京歯科大市川総合病院) 山田恵子(癌研有明病院)
世話人：浮洲龍太郎(昭和大横浜市北部病院) 尾尻博也(慈恵医大)
栗原宜子(聖マリアンナ医大) 酒井 修(ボストン大)
鈴木恵子(東京女子医大) 塚本 浩(静岡市立清水病院)
顧問：多田信平

<胸部>

代表世話人：佐藤雅史(日本医大武蔵小杉病院)
世話人：荒川浩明(獨協医大) 岩沢多恵(神奈川県立循環器・呼吸器センター)
氏田万寿夫(慈恵医大) 叶内 哲(埼玉県立循環器・呼吸器センター)
櫛橋民生(昭和大横浜市北部病院) 楠本昌彦(国立がんセンター中央病院)
栗原泰之(聖マリアンナ医大) 甲田英一(東邦大学医療センター大橋病院)
酒井文和(埼玉医大国際医療センター) 中島康雄(聖マリアンナ医大)
南 学(筑波大) 横山健一(杏林大)
顧問：土井 修、蜂屋順一

演者へのお願い

原稿の読み上げはご遠慮ください。発表はパソコンを使用します。
基本はデータの持ち込み（USBメモリースティック、CD）と
しますが、データのコピーなど不都合が生じる場合及びMacの
場合、ご自身のパソコンをご持参ください。
一般演題のご発表は6分、質疑2分にてお願い致します。

共催 頭頸部・胸部画像研究会
テルモ株式会社

東京国際フォーラムへのアクセスご案内



●所在地：〒100-0005 千代田区丸の内3丁目5番1号 電話：03-5221-9000（代表）

●JR線

- ・有楽町駅より徒歩1分
- ・東京駅より徒歩5分（京葉線東京駅とB1F地下コンコースにて連絡）

●地下鉄

- ・有楽町線：有楽町駅とB1F地下コンコースにて連絡
- ・日比谷線：銀座駅より徒歩5分/日比谷駅より徒歩5分
- ・千代田線：二重橋前駅より徒歩5分/日比谷駅より徒歩7分
- ・丸の内線：銀座駅より徒歩5分
- ・銀座線：銀座駅より徒歩7分/京橋駅より徒歩7分
- ・三田線：日比谷駅より徒歩5分

●首都高速道

- ・霞ヶ関出口から晴海通り
- ・神田橋出口から日比谷通り
- ・宝町出口から鍛冶橋通り
- ・京橋出口から鍛冶橋通り



**CONTRAST
MEDIA**

TERUMO
人にやさしい医療へ

【造影剤】

【造影剤】
MRI用造影剤 **マグネスコープシリンジ**
100% 100% 100% 100% 100% 100%

【造影剤】
非イオン性造影剤 **イマジニール 300 350**
100% 100% 100% 100% 100% 100%

【造影剤】
造影剤 **ヘキサブリックス320**
100% 100% 100% 100% 100% 100%

【造影剤】
造影剤 **リビオドールウルトラフルイド**
100% 100% 100% 100% 100% 100%

（注）処方・投与量：日本一医療者の処方・投与量に準拠して
※効果・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意については、添付文書をご覧ください。

東京支店
テルモ・ジャパン株式会社
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

大阪支店
テルモ株式会社
〒545-0856 大阪府大阪市東淀川区東中津1-1-1

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 TEL:03-5221-9000 FAX:03-5221-9001
〒545-0856 大阪府大阪市東淀川区東中津1-1-1 TEL:06-6644-1111 FAX:06-6644-1112

— PROGRAM —

13:25 開会の辞 岩沢 多恵

13:30 特別講演 1

『胸部写真の味わい方——興味深い症例とは?——』

司会： 岩沢 多恵 (神奈川県立循環器・呼吸器病センター)

講演： 佐藤 雅史先生 (日本医科大学武蔵小杉病院)

14:20 一般演題 (胸部) 座長： 叶内 哲 (埼玉県立循環器・呼吸器病センター)

演題 1 縦隔気腫における continuous diaphragm sign の成り立ちについての検討

聖路加国際病院放射線科 1)、福井大学医学部放射線科 2)

負門 克典 1)、岡島 由佳 1)、伊藤 春海 2)、松迫 正樹 1)、齋田 幸久 1)

【要旨】 Continuous diaphragm sign は従来いわれていた心臓と横隔膜の間ではなく、phrenicopericardial recess に分布する air で形成されることを示す。

演題 2 縦隔線維症の 1 例

神奈川県立循環器・呼吸器病センター・呼吸器科 同・放射線科 1) 横浜市立大学・病理 2)

佐藤友英, 十河容子, 小倉高志, 高橋宏, 岩澤多恵 1), 下山田博明 2), 矢澤 隆 2)

【要旨】 50 歳代男性。主訴：背部痛。胸部 CT で大動脈弓部付近、腹部大動脈前面に軟部腫瘤を指摘。縦隔腫瘍が疑われ縦隔腫瘍生検施行。病理組織学的に縦隔線維症の診断となった。

演題 3 FDG が腫瘍辺縁部に高集積を示した肺大細胞神経内分泌癌の 1 例

公立大学法人横浜市立大学附属病院・放射線科

柴田浩史, 岡部哲彦, 吉田啓介, 軽部美佐子, 鈴木晶子, 長嶋敏幸, 李 進, 井上登美夫

【要旨】 症例は 60 代男性。検診で腫瘤影を指摘された。胸部 CT にて左上葉に小石灰化を伴う分葉状腫瘤を認め、FDG-PET では腫瘤の辺縁部に高集積が見られた。手術が施行され、病理は大細胞神経内分泌癌であった。

演題4 奇静脈血管腫の1例

杏林大学・放射線医学教室 同・第2外科1) 同・病院病理2)
稲岡祥幸, 横山健一, 鈴木清寿, 似鳥俊明, 武井秀史1), 呉屋朝幸1), 知念克也2)

【要旨】39歳女性。検診で右肺尖に不整な胸膜肥厚を指摘。近医のCTで後縦隔に腫瘍を指摘され、当院を紹介受診となった。神経原性腫瘍が疑われ、手術を施行。診断は奇静脈由来の血管腫であった。

演題5 塊状巣を呈した Siderosis の2例

獨協医科大学・放射線科 同・アレルギー呼吸器内科1) 同・病理学2)
荒川浩明, 福島康次1), 本間浩一2)

【要旨】Siderosisは職業性に鉄・酸化鉄を吸入することで肺内に鉄を含む macule を形成するが、線維化を生じないと言われている。今回、塊状巣と肺気腫が見られ、経気管支肺生検で Siderosis と診断された2症例を呈示する。

演題6 好酸球性肺疾患の画像所見(第2報告)～急性好酸球性肺炎について～

東京慈恵会医科大学・放射線医学講座 同・呼吸器内科1)
氏田万寿夫, 五十嵐隆朗, 福田国彦, 斎藤桂介1)

【要旨】急性好酸球性肺炎は、非感染性発熱性肺疾患の1つであり、急性肺炎など感染性肺疾患との鑑別が臨床問題となる。当院において2年6ヶ月間に経験した急性好酸球性肺炎5症例の臨床像ならびに画像所見について、文献的考察を交え報告する。

15:10 コーヒーブレイク

15:20 特別講演 2

『他施設間における頸部郭清術の術式均一化の試み』

司会： 尾尻 博也 (東京慈恵会医科大学)
講演： 斉川 雅久先生 (国立がんセンター東病院 頭頸科)

【抄録】

近年がん診療においては治療成績の施設間格差がクローズアップされており、がん医療水準の均てん化の必要性が叫ばれている。しかし手術治療において均てん化はあまり容易な問題ではない。これは手術が多数の複雑な技術の集合体であり、いまだに師匠から弟子へ直接伝授するしか伝えようのない治療法であることに深く関係がある。ある一施設の手術技術を他施設に伝えるためには、医師の派遣による指導が必要になり、種々の事情から多くの制約を受ける。異なる施設間で手術の技術レベルを揃えることは一般に非常に困難である。

この度全国 22 の耳鼻咽喉科・頭頸科関連施設のご協力を得て、頸部郭清術における術式細部の均一化を目指した前向き研究を行った。頸部郭清術の現在の主流は機能温存術であるが、その複雑な開発経緯から機能温存術には多くの術式が存在し、それぞれの適応や術式の細部には大きな混乱が見られる。この混乱により各施設における術式の差、ひいては治療成績の差が生み出されていると考えられたため、頸部リンパ節切除範囲および切除する非リンパ組織など術式の細部に関して一定の均一化が必要と考えた。多施設間で術式を均一化するための具体的方策をどうするかは難しい問題であるが、今回は協力施設の医師が別の協力施設の手術室に入り、その施設の医師の頸部郭清術を直接見学するという形を取った。このような手術見学をお互いに多数実施することにより、均一化が図れないかと考えたわけである。結果として前向き研究は非常に円滑に行われ、235 例の手術見学により協力施設における術式がある程度均一化されたことを統計学的に示すことができた。今回はこのユニークな試みについてお話ししたい。

また今回の研究では頭頸部がんの頸部リンパ節転移に対する治療ガイドライン案を作成し、そこに画像診断基準を盛り込むことも計画し、現在作業が進行中である。これについてもお話しする予定である。

16:20 一般演題 (頭頸部) 座長： 浮洲 龍太郎 (昭和大学横浜市北部病院)

演題 1 Narrow, duplicated internal auditory canal の 2 例

東京慈恵会医科大学・放射線医学講座
尾尻博也

【要旨】 Narrow, duplicated internal auditory canal は内耳道が狭小化とともに骨性隔壁により上下に二分される稀な内耳道奇形であり、現在まで臨床報告例は 5 例にとどまる。今回、自験例 3 例に付き、画像所見を中心として文献的考察を加えて報告する。

演題2 FDG-PET/CT が有用であった鼻腔NK/T細胞リンパ腫の1例

関西医大滝井病院・放射線 関西医大枚方病院・放射線1) 関西医大枚方病院・病理2)
池田耕士, 河相 吉1), 鎌田 実1), 前原 稔1), 坂井田紀子2), 大村直人1), 黒川弘晶1), 米虫敦,
播磨洋子, 澤田敏1)

【要旨】節外病変を主体とした悪性リンパ腫の1病型である。正中構造を破壊する鼻腔腫瘍であり、上咽頭・副鼻腔に浸潤する。PDG-PET/CTはMRIと比べて上咽頭・副鼻腔への浸潤の有無を確認するのに有用であった。

演題3 右耳下腺basal cell adenomaの1例

昭和大学・放射線科
西城 誠, 扇谷芳光, 川原正明, 須山淳平, 清野哲孝, 廣瀬正典, 後閑武彦

【要旨】55歳女性。右耳下腺にMRIで約2.5cmの嚢胞成分と充実成分からなる腫瘤を認めた。手術によりbasal cell adenomaと診断された。

演題4 両側涙腺に発生した木村氏病の1例

癌研究会有明病院・画像診断部 同・超音波検査部1) 同・眼科2)
田中宏子, 河野 敦, 遠藤寛子, 五味直哉, 松枝 清, 藤原良将1), 山田恵子1), 辻 英貴2)

【要旨】両側涙腺腫大を主訴に来院した36歳男性。MRにて両側涙腺腫大、両側眼窩下管から翼口蓋窩に連続する腫瘍性病変が認められた。悪性リンパ腫が疑われ生検が施行され木村氏病と診断された。文献的考察を加え報告する。

16:55 一般演題（頭頸部） 座長： 山田 恵子（癌研究会有明病院）

演題5 喉頭傍神経節腫の1例

帝京大医学部・放射線科
工富公子, 豊田圭子, 治山高広, 高田晃一, 鈴木 滋, 神武 裕, 竹下浩二, 大場 洋, 古井 滋

【要旨】症例は25歳男性、主訴は嗄声。内視鏡にて左披裂喉頭蓋襞を中心にして大きな粘膜下腫瘤が、画像では平滑類円形の増強される腫瘤として認められた。喉頭垂直部分切除が施行された。

演題6 下顎骨粘液腫の1例

自治医科大学・放射線医学教室 同・口腔外科学教室1) 同・病理学教室2)
木村有喜男, 藤田晃史, 赤羽佳子, 大竹悠子, 歌野健一, 中田和佳, 小林 茂, 中田 学, 山元龍哉,
篠崎健史, 杉本英治, 野口忠秀1), 金井信行2), 田中 亨2)

【要旨】36歳女性。左下顎臼歯部の違和感を主訴に来院。パントモで左臼歯部の透過性病変を認めた。CTで膨瘤性変化の強い腫瘍を認め、MRIでは淡い増強効果を示す充実性腫瘍が疑われた。歯源性粘液腫と診断された。

演題7 下顎骨中心性粘表皮癌の2例

昭和大学歯科・放線線学教室1) 癌研病理部2)
木村幸紀1) 2), 花澤智美1), 岡野友宏1), 山本智理子2)

【要旨】今回われわれは、下顎骨内に原発した粘表皮癌と考えられた2例を経験したので報告する。1例は75歳・女性、他の1例は60歳・男性であった。ともに骨膨隆が著明で、骨破壊像は乏しく骨膜反応様の所見がみられた。

演題8 翼口蓋窩に発生した粘表皮癌の1例

昭和大学横浜市北部病院・放射線科 同・耳鼻咽喉科1) 同・病理2)
浮洲龍太郎, 薄井庸孝, 鈴木美奈子, 馬場麻衣子, 藤澤英文, 武中泰樹, 榎橋民生, 柳裕一郎1),
石田 良1), 門倉義幸1), 塩川章2)

【要旨】31歳、女性。左頬部痛にて受診。CT、MRIで左翼口蓋窩から上顎洞内に骨破壊、および周囲浸潤を伴う軟部組織腫瘍を認めた。PET/CTでは $SUV_{max}=5.17$ の腫瘍で、生検で粘表皮癌と診断された。経過、画像所見、病理組織学的所見を中心に報告する。

17:30 閉会の辞 尾尻 博也

17:40 懇親会 東京国際フォーラム ガラス棟 402号室

